

2009年
寄贈品コーナーの展示 3月4日(水)～3月29日(日)

道了尊・星の参道☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

南足柄市の大雄山最乗寺参道には、中国式の星座名を冠した珍しい石の道しるべが建っています。一丁目～二十八丁目の道程を知らせると同時に、参拝者を導く灯籠として設けられたものです。現存する二十八宿道標には3つの種類があり、それぞれ元治元年、明治40年、平成2年に建てられました。そして、このうち最多の26基(他に番外2基あり)を残す明治40年の道標は、江戸時代から続いた浅草の花街新吉原の遊廓楼主らが寄付したものです。

有名な東京の遊里吉原の人々が、なぜ遠い大雄山に道しるべを寄付したのでしょうか？

あるいは道端に倒れ、あるいは苔むした全道標写真に、台東区図書館よりお借りする明治の吉原史料をまじえて展示し、星の名を用いたお洒落な道しるべと、これを寄付した吉原の人々の足跡を探ります。



かつて新吉原江戸町二丁目、伏見町と通称された台東区千束町の通り。二十八宿道標寄付に尽力した新龍ヶ崎楼があった。